

第40回 東名高速道路におけるタイヤ点検アンケート調査の結果報告

社団法人日本自動車タイヤ協会（会長 三野哲治）では、関係各位のご協力を得て、去る7月25日、東名高速道路・浜名湖サービスエリアに駐車中の自動車タイヤの点検並びにそのドライバーを対象としたアンケート調査を行ないましたので、その結果をここに発表致します。

このタイヤ点検は、タイヤ整備不良に起因する自動車事故の未然防止を図ることを目的に、東名高速道路が全線開通した当初より毎年、この時期に実施しているものであり、今年で40回目となります。

当会が実施しているこの他のタイヤ点検の結果からもタイヤの日常点検・整備等が適正に行われていないことが窺えるため、今後も本点検をはじめとする様々な啓発活動の中でタイヤ適正使用・管理の重要性を訴求して参ります。



● タイヤ点検・アンケート調査の対象車種及び目的

項目	対象車種	目的
タイヤ点検	乗用車 大型バス トラック	タイヤ整備不良に起因する自動車事故の未然防止を図る。
アンケート調査	乗用車 大型バス	タイヤ使用に関するドライバーの意識を調査し、正しい使用・管理方法をPRする。

● 後 援

経済産業省
国土交通省
社団法人 日本自動車工業会

● 協 力

中部運輸局
関東管区警察局 川崎高速道路管理室
静岡県警察本部 交通部 高速道路交通警察隊
中日本高速道路株式会社 横浜支社
社団法人 日本自動車連盟 中部本部

1. タイヤ点検結果の概要

今回、タイヤ点検を行った車両は乗用車174台、大型バス43台及びトラック88台の合計305台ですが、これら車両のタイヤ整備の概要は次の通りです。

1-1 タイヤ整備の「車種別」状況について

タイヤ点検を行った車両305台のタイヤ整備状況は表-1の通りです。

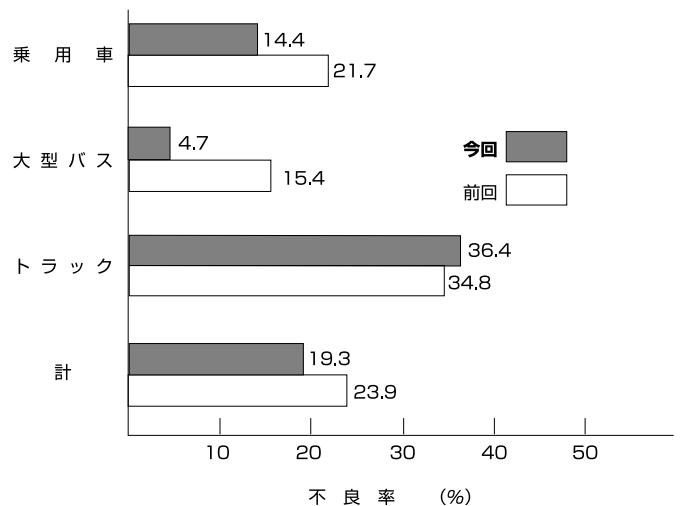
表-1 タイヤ整備の「車種別」状況

車種	点検車両	タイヤ整備不良車両	不良率	増減	前回不良率
乗用車	174台	25台	14.4%	-7.3	21.7%
大型バス	43	2	4.7	-10.7	15.4
トラック	88	32	36.4	+1.6	34.8
計	305	59	19.3	-4.6	23.9

- 1) タイヤの整備不良車両は305台のうち59台であり、不良率は19.3%になっています。
- 2) タイヤの整備状況を車種別にみると、不良率が一番高かったのはトラックで36.4%、次いで乗用車14.4%の順となっており、大型バスは4.7%でした。
- 3) タイヤの整備状況について今回と前回は比べると、全体の不良率は4.6ポイント減少しています。

(図-1参照)

図-1 車種別・タイヤ整備不良率の比較



1-2 タイヤ整備不良の「車種別・項目別」内訳

タイヤの整備不良車両59台の「車種別・項目別 (69件)」内訳は表-2の通りです。

表-2 タイヤ整備不良の「車種別・項目別」内訳

不良項目	乗用車		大型バス		トラック		計		増減	前回不良率
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)		
タイヤ溝不足	0	0.0%	0	0.0%	19	21.6%	19	6.2%	+1.8	4.4%
偏摩耗	1	0.6	2	4.7	14	15.9	17	5.6	-0.8	6.4
外傷	0	0.0	0	0.0	1	1.1	1	0.3	±0.0	0.3
釘・異物踏み	0	0.0	0	0.0	2	2.3	2	0.7	+0.7	0.0
空気圧不足	21	12.1	—	—	—	—	21	12.1	-6.4	18.5
その他	4	2.3	0	0.0	5	5.7	9	3.0	-0.7	3.7
計	26	—	2	—	41	—	69	—	—	—

注)①乗用車の空気圧点検は実測(ホット状態)。

- 1) タイヤ整備の不良を項目別に見ると、不良率1位は空気圧不足で12.1%、次いでタイヤ溝不足が6.2%、偏摩耗が5.6%の順となっています。
- 2) 図-2より、「空気圧不足」が6.4ポイント減少(前回対比)していますが、項目別に見るとワースト1を示しています。一方、「タイヤ溝不足」の不良率は1.8ポイント高まり、増加の傾向となりました。

図-2 項目別・タイヤ整備不良率の比較

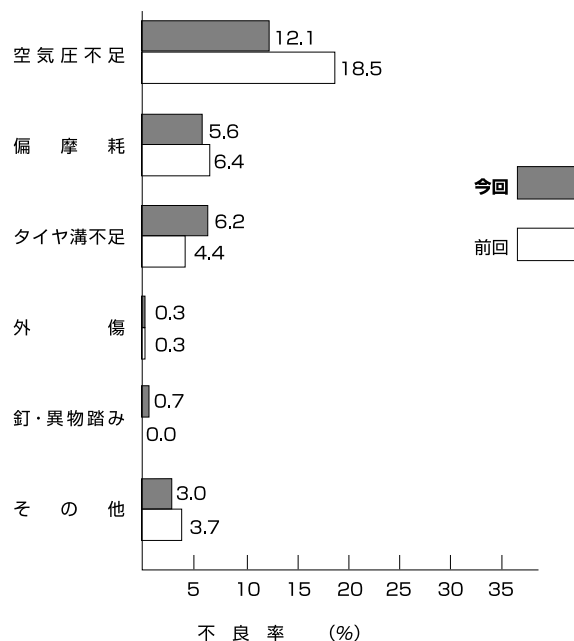


表-3 第40回 東名高速道路におけるタイヤ点検結果

	前回(参考) 第39回(2007.7.20)				今 回 第40回(2008.7.25)				増 減	
	乗用車	大型バス	トラック	計	乗用車	大型バス	トラック	計		
A. 点検車両 (台)	189	39	69	297	174	43	88	305	—	
B. タイヤ整備 不良車両 (台)	41	6	24	71	25	2	32	59	—	
B/A. 不良率 (%)	21.7	15.4	34.8	23.9	14.4	4.7	36.4	19.3	-4.6	
タイヤ整備 不良の内訳 (件数)	タイヤ溝 不 足	1 (0.5)	1 (2.6)	11 (15.9)	13 (4.4)	0	0	19 (21.6)	19 (6.2)	+1.8
	偏 摩 耗	1 (0.5)	5 (12.8)	13 (18.8)	19 (6.4)	1 (0.6)	2 (4.7)	14 (15.9)	17 (5.6)	-0.8
	外 傷 (コードに 達するもの)	0	0	1 (1.4)	1 (0.3)	0	0	1 (1.1)	1 (0.3)	±0
	釘・異物踏み	0	0	0	0	0	0	2 (2.3)	2 (0.7)	+0.7
	空 気 圧 不 足	35 (18.5)	—	—	35 (18.5)	21 (12.1)	—	—	21 (12.1)	-6.4
	そ の 他	6 (3.2)	1 (2.6)	4 (5.8)	11 (3.7)	4 (2.3)	0	5 (5.7)	9 (3.0)	-0.7
	計	43	7	29	79	26	2	41	69	—

- 注) ① 1台の車両で複数のタイヤ整備不良(項目)がある場合がある為、タイヤ整備不良車両台数とタイヤ整備不良件数は必ずしも一致しない。
 ② 不良率：「タイヤ整備不良車両台数又は不良項目件数」/「点検車両台数」×100
 なお、「タイヤ整備不良の内訳(件数)」の()は不良率を示す。
 ③ 乗用車の空気圧は実測(ホット状態)。

1-3 トラック(積載4t以上)の空気圧実測結果について

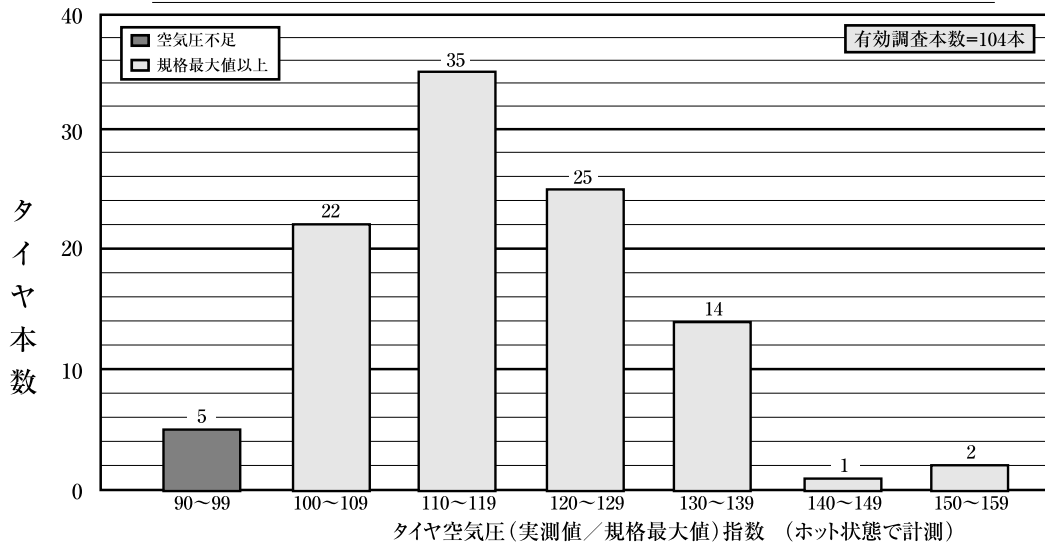
大型車両に対する空気圧管理の啓発をより一層推進することを目的に、積載量4t以上のトラックに装着されているタイヤについて専門チームを設けて空気圧の実測を行いました。

その結果は、以下の通りです。

- 1) トラック(積載4t以上)の空気圧点検を実施したところ、52台中3台に装着されたタイヤで空気圧不足の状態がありました。
- 2) 空気圧実測での不良率は5.8%と前回(点検台数60台、空気圧不足車両9台、不良率15.0%)に比べ9.2ポイント減っています。しかし、その他の項目:タイヤ溝不足が微増していることも考慮し、引き続き適正使用のPRが必要と考えられます。



図-3 タイヤ規格最大値に対するユーザー空気圧管理実態(大型トラック)



2. アンケート調査結果の概要

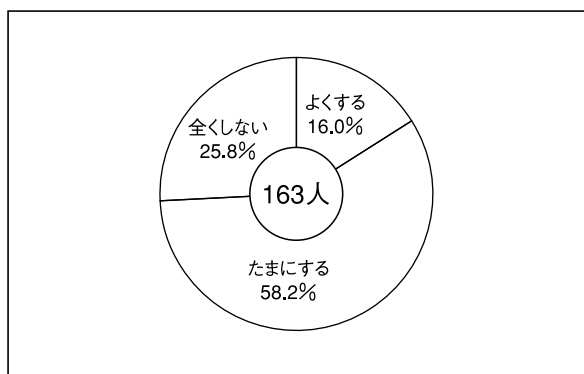
今回のアンケート調査では、乗用車のドライバー163人、大型バスのドライバー40人に回答を戴きました。それぞれの質問に対する回答は次の通りです。

(グラフの中心に表示している数字は当該質問の有効回答者数です)



《乗用車》

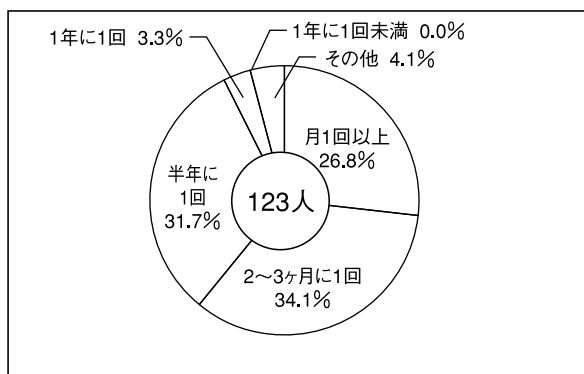
Q1 日頃タイヤ点検をすることがどの程度ありますか？



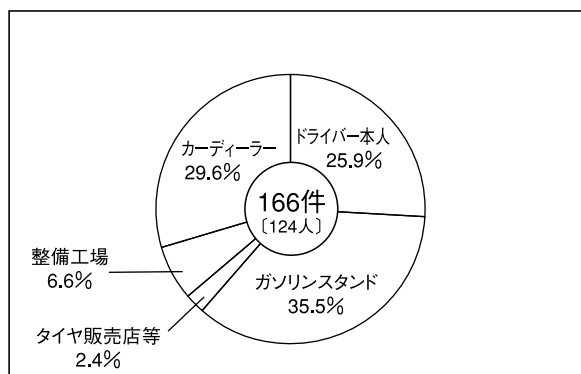
点検する 121人 (74.2%)	{ よくする 26人 (16.0%) たまにする 95人 (58.2%)
全くしない 42人 (25.8%)	

タイヤの日常点検実施については、26人が「よくする」16.0%、95人が「たまにする」58.2%と多くのドライバーが行っているものの、「全くしない」というドライバーが42人(25.8%)もいることから、タイヤ日常点検の必要性に対する意識が不十分であることがわかりました。

Q1-2 それほどの位の頻度で行いますか？



Q1-3 誰が(又はどこで)点検を行いますか？(複数回答)



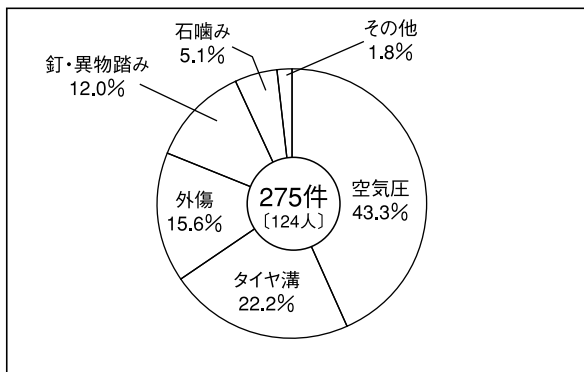
タイヤの日常点検頻度について

前質問(Q1)で日常点検を実施すると回答したドライバーは全体の約7割強を占めたものの、月1回以上の点検実施者は3割にも満たないことがわかりました。

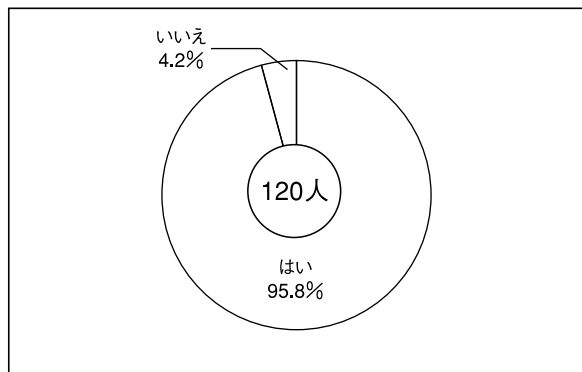
タイヤ点検の実施場所について

ガソリンスタンドで点検するが59件(35.5%)でもっとも多く、次いでカーディーラーで点検する49件(29.5%)の順となっています。

Q1-4 何を点検しましたか？(複数回答)



Q1-5 空気圧はエアゲージで点検していますか？



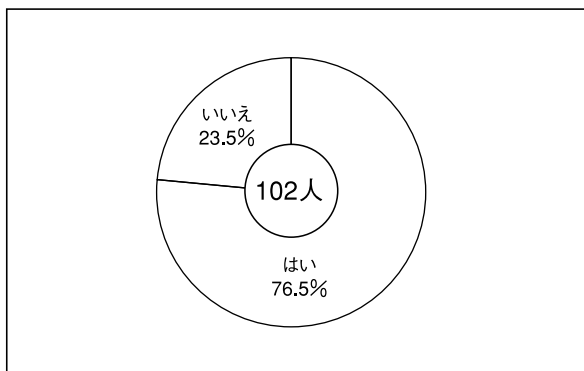
タイヤの点検項目について

実際にタイヤを点検する際の実施項目については、「空気圧」を点検するとの回答が119件（回答総数の43.3%）で最も多く、次いで「タイヤ溝」の点検が61件（22.2%）となっています。

エアゲージの使用について

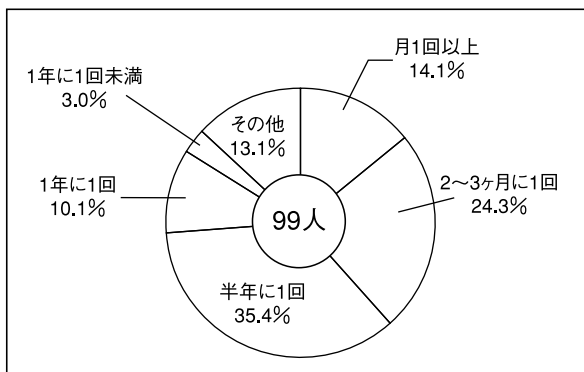
エアゲージを使用して空気圧を点検していると回答されたドライバーは120人中115人（95.8%）でした。

Q2 タイヤの空気は自然に漏れると思いますか？



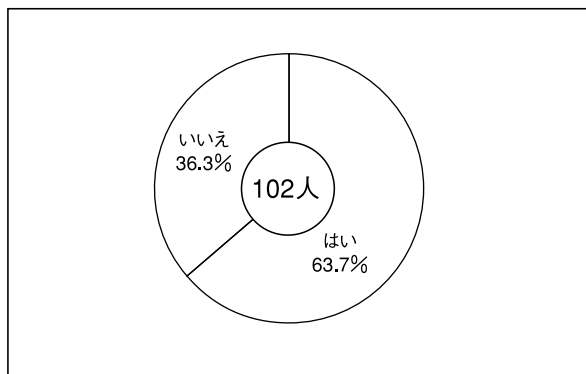
タイヤの空気が自然に洩れることを知っているドライバーは102人中、78人（76.5%）おりました。24人（23.5%）のドライバーがタイヤの空気が自然に漏れることを知らないことがわかりました。

Q3 タイヤの空気圧はどの位の頻度で点検していますか？



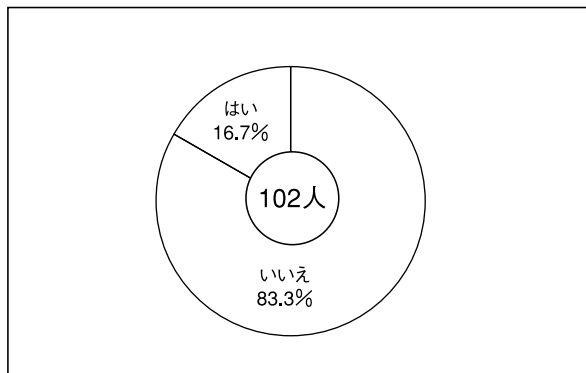
99人中、14人（14.1%）のドライバーが月1回以上空気圧を点検しているものの、点検頻度が1年に1回若しくはそれ未満というドライバーが13人（13.1%）いることがわかりました。

Q4 指定空気圧がどこに表示されているかご存知ですか？

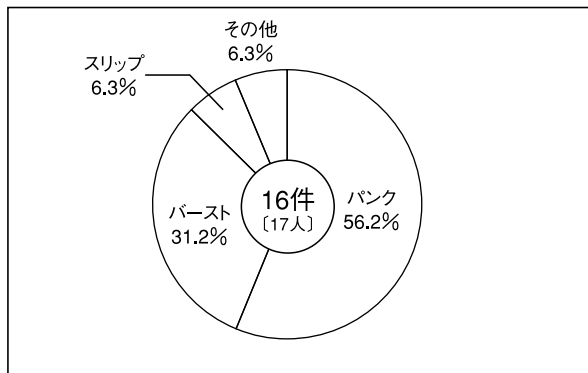


知っている と答えたドライバーは102人中65人(63.7%) ありました。

**Q5 高速道路を走行中、タイヤトラブルを
起こしたことがありますか？**



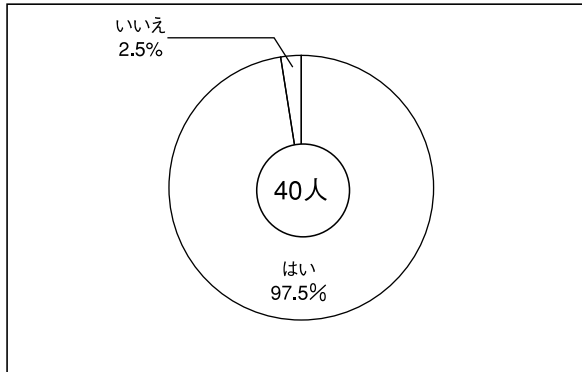
**Q5-1 それはどんなトラブルですか？
(複数回答)**



102人中17人(16.7%)と約1.5割のドライバーがタイヤトラブルを経験していることがわかりました。
また、トラブルの内訳はパンクが9件(56.2%)、次いでバーストが5件(31.2%)の順となっています。(1人回答なし)

《大型バス》

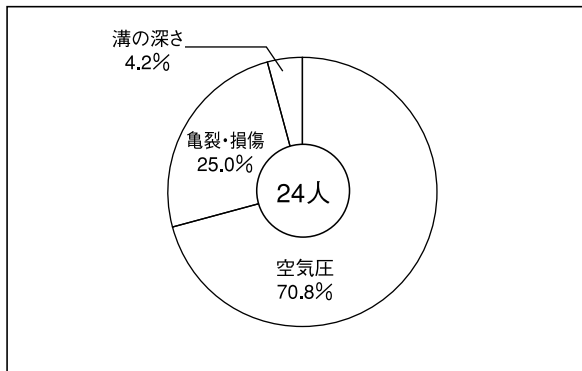
Q1 出発前にタイヤ点検をしましたか？



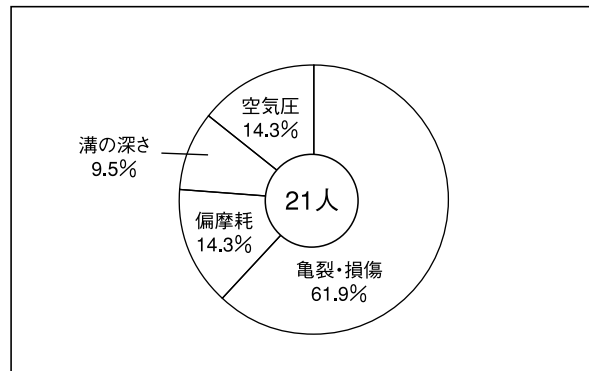
アンケートを受けたドライバー40人中39人（97.5%）が出発前のタイヤ点検を実施していました。

Q1-2 何を重点的に点検しましたか？（2つ挙げて下さい）

重点度1位

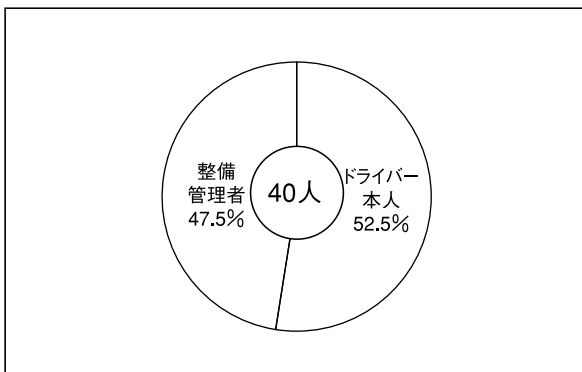


重点度2位



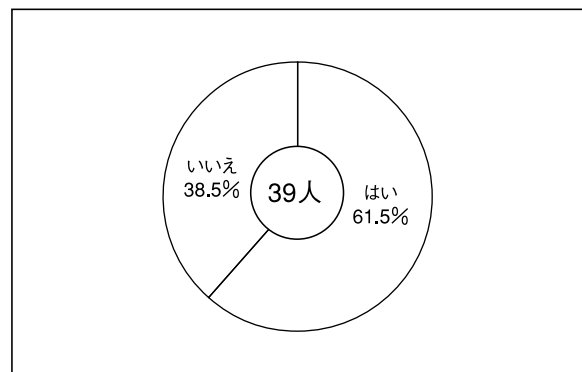
空気圧 24人中17人（70.8%）、亀裂・損傷 21人中13人（61.9%）とこの2つの項目を重点的に点検しているドライバーが多いことがわかりました。

Q2 タイヤの定期点検は誰が行いましたか？



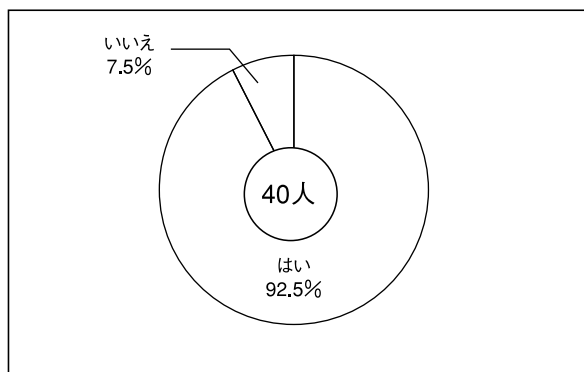
自分自身でタイヤの点検を行ったというドライバーは21人（52.5%）、整備管理者が行ったのは19人（47.5%）でした。

Q3 このバスのタイヤの指定空気圧を知っていますか？

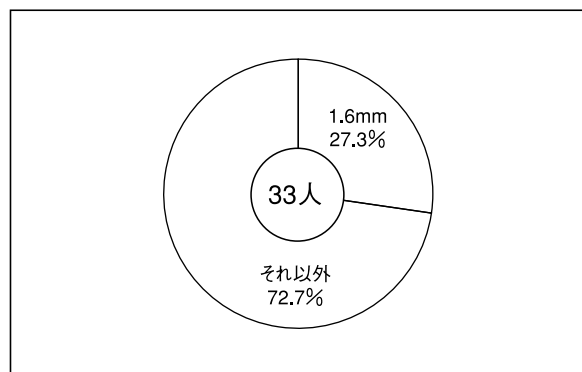


タイヤの指定空気圧を知っているドライバーは24人（61.5%）、知らないドライバーが15人（38.5%）いることがわかりました。

Q4 「スリップサイン」という言葉を知っていますか？

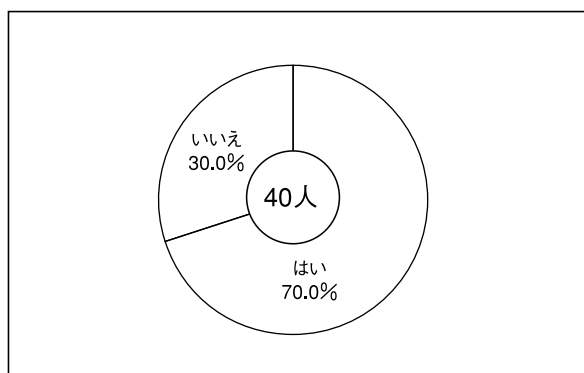


Q4-1 それは残り溝何mmであられますか？

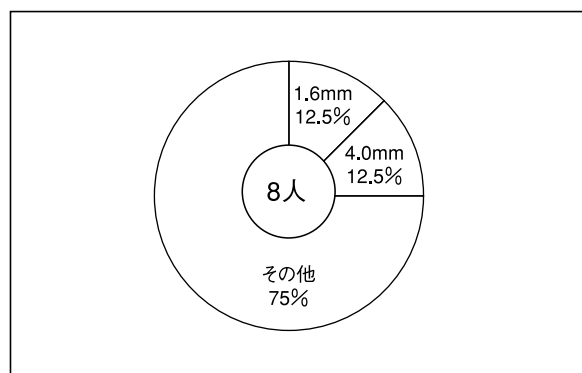


スリップサインを知っていると回答されたドライバーが37人（92.5%）いるものの、その値1.6mmを知っているドライバーは9人（27.3%）と、正しく理解していない人が7割強いることがわかりました。

Q5 タイヤ取替時の溝深さについて、会社から指示されていますか？



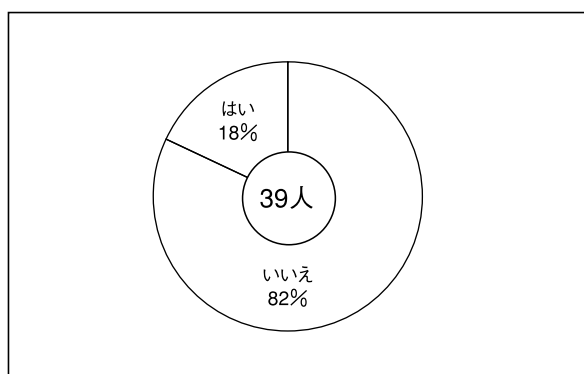
Q5-1 それは何mmですか？



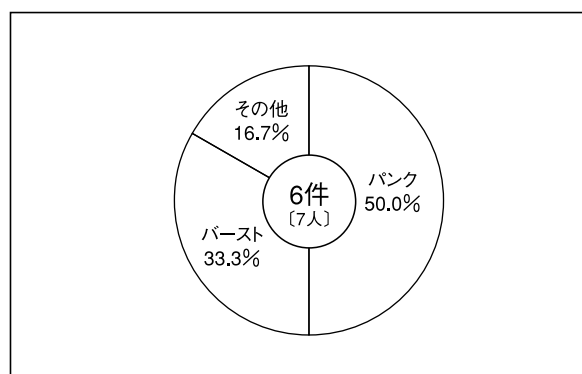
大型バスでは高速走行時の摩耗限度が3.2mmと規定されています。アンケートの結果、取替時の溝深さを会社から指示されているドライバーは28人（70.0%）、指示なしは12人（30.0%）となっています。

高速走行時に必要とされる残り溝深さ3.2mm以上でタイヤ取替を指示されているドライバーは1人（12.5%）でした。

Q6 高速道路を走行中、タイヤトラブルを起こしたことがありますか？



Q6-1 それはどんなトラブルですか？（複数回答）



タイヤトラブルの経験があると回答されたドライバーは7人（18%）でした。

又、そのトラブルの内容はパンクが3件（50.0%）、次いでバーストが2件（33.3%）、その他1件（16.7%）となっております。（1人回答なし）